



多読による英語学習法

Extensive Reading Course



SEG提携校 **パスカル数理ゼミ**

HURRY!



使って学ぶ、
学びながら使う。





英語の学習法もいろいろありますが、身につけるにはどうしたらよいのでしょうか。適切な学習法も、その人の年齢や学習環境によって異なってくると思います。しかし、どんな方法の場合でも大切なことは、実際に「使いながら学ぶ」ということです。英語圏で暮らせば英語が自然と身につくのは、「使いながら学ぶ」が行われているからです。

では、中学・高校生が英語を使えるようにするにはどういう環境が良いでしょうか。この時期になりますと日本語での会話の基礎はほぼ完成しているわけですから、単なる役割分担のロールプレイや英語ゲームではなく、実際にコミュニケーションとして英語を使うことが上達の近道になると思います。もちろん学校や塾などの教育の場でも英語を学習するわけですから、この環境とひと味違ったものをパスカルでは提供していきます。

英語を使って仕事をする能力が益々重要になってきているグローバル・ボーダレス社会の中で、使う事を想定した学習が望まれます。



多読による英語学習。

現在、インターネットで配信される情報の約70%は英文ですから、これがすらすら読めるようになると情報環境は大きく広がります。また、1年間に海外旅行に出かける日本人の数は約1,790万人になるといわれています。しかし、英語に関する現状は中学から高校、大学と長い期間をかけて勉強してきたにもかかわらず、すらすら読めない、日常会話も十分でない人が少なくないようです。この状況を克服するにはどうすればよいのでしょうか。

この原因のひとつは、「短くて難しい文章を分析的に読む」ことを中心に据えた精読法で英語を学んできたからだといえます。英語をマスターするためには、何よりも大量の英語に触れること、つまり“多読”が重要なのです。しかし、その重要性は認識していても、これまで体系的な学習法は確立されていませんでした。

そこで私たちはStart with Simple Storiesという“SSS英語学習法”を導入します。読む量とスピードを重視する学習法で、100万語読破を目標にしています。それも極めて易しいレベルからスタートし、無理なく自然に「英語で考える力」が身につくようになっています。

多読法の3つの原則

- 1 辞書は引かない。
- 2 わからないところは飛ばして前へ進む。
- 3 つまらなくなったらやめる。



英語の耳をしる。



音声は英語でコミュニケーションする際に非常に重要な役割を果たします。相手が言っている事を聞いて理解し、自分の考えを相手に伝える、これがコミュニケーションの原点です。パスカルでは実際に英語を使うという局面を想定し英語教育に取り組みます。“多読”もそのひとつですし、“英語の耳”をつくるのも、子どもたちが将来社会に出て英語を使ってコミュニケーションをする際の基礎となるものです。ナチュラルスピードで話される会話、アナウンスメントを1回でその要旨を聞き取ることを目標にします。

さて、英語の耳を作るには、大量に聞くしか方法はありません。“多読”と同じです。したがってパスカルでは、ナチュラルスピードの英文を最初は短いものから始めて、最終的には中程度の長さのアナウンスが聞き取れるように生徒の皆さんに量聞いてもらいます。また、*1ディクテ

ションと*2シャドウイングを取り入れる事で、集中力と英語のリズム感の養成もあわせて行います。細部にあまりこだわらず1つ2つ知らない単語や、聞き取れない部分があっても全体の要旨は聞き取る力をつけてもらいたいと思っています。

ところで、“多読”で英文を大量に読み込むと、発声される英語が予測イメージできるようになり、聞き取りも非常に容易になる傾向があります。ですから興味のある物語を朗読したり音声CDを繰り返し聞いたりする個人トレーニングも英語の耳の育成に役立ちます。中学・高校生は英語を「勉強しなければ」という義務感はあるわけですから、続けるモチベーションが大切になっていきます。自然な学びの中で、自分のペースを尊重したトレーニングを続けることが大切になります。



*1 ディクテーション

読み上げられた外国語の文章や単語を書き取ること。また、それによる試験。

*2 シャドウイング

聞き取った英文を、まるで影がついていくように、ぴったり音の後について復唱すること

実際に使う



パスカルの“英語多読コース”の授業は、ネイティブと日本人講師のペア授業で行いますが、限られた時間の中ですから、もちろん実際に使うことに限界はあります。授業自体を英語のみで行う場合もあります。授業自体を英語のみで行う場合もありますが、次のような工夫も行います。

私たちの脳は単純に事柄や数字だけを覚えることよりも、物語を理解するようになっています。また私たちは物語として物事を覚える方がはるかに忘れにくくなります。ですから、共通の物語をテーマにして、あの文章はどういう意味に解釈したかの意見交換をしたり、登場人物になったと仮定して自分だったらどうするか、などの発言をしてもらい共感作業を行います。また実際辞書を引かず^ににどんどん読んでいく中で、でてきた語彙・語感を共感し確認していくことは、言葉のイメージ整理として大切な作業でもあります。

少しレベルが高いクラスでは初対面の人にも怖気づかないように、決められた時間でペアを替えるOne to Oneコミュニケーションをしていきます。10分程度で交代して話し相手を替え、テーマに沿ってレポートしてもらいます。クラスレベルにより口頭発表または文章による提出をもらいます。





受験のフオロ。

パスカルでは高校2年生の後半から、受験に向けての対策も行っています。2006年からセンター試験にリスニングが課されるようになり、入試における英語の比重はますます大きくなっています。センター試験では比較的基礎的な英語力を試す目的で、口語英語と読解力を重視する方針がとられています。特に読解の配点は70%を占めており、これはセンター試験対策において不可欠となります。ですから個々レベルに応じた長文に多数あたらせることで読解力を身につけさせています。もちろんその前提としての語彙力、文法力も必要です。パスカルでは厳選された文法教材を用いて入試によくでるパターンを繰り返し身につけさせるとともに、単語・熟語テスト等で語彙力の確認を行っています。もちろんリスニング対策も毎回授業で行っています。

次に国公立2次試験では、これに向けたよりハイレベルな読解、要約問題(入試によっては英語で要約する大学もある)、英作文、などについて志望校に合わせた指導を行っています。英作文では個人添削なども行っており、生徒の皆さんが選んだ目標に向かう気持ちが真剣であればあるほど得るものも多い充実した内容です。



